

平成23年度 第2回公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成24年3月8日（木） 午後3時から午後4時00分まで

【場 所】 公立能登総合病院 会議室（3階）

【出席者】 18名（委員6名、当院8名、事務局4名）

（委員） 松木会長、小林委員、小川委員、坂井委員、清水委員、荒牧委員

（当院） 川口事業管理者、藤岡病院長、池野副院長、永畠経営本部長、出村経営管理部次長、寺尾管理課長、北川診療支援課長、勢田地域医療支援副センター長

（事務局）丸岡経営企画課長、土倉課長補佐、羽石専門員、宮本主事

【内容】

1 開会のあいさつ

＜川口病院事業管理者＞

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
平成23年度第1回病院協議会では、上半期の経営状況等について説明いたしました。
今回は、下半期の運営状況、次年度の取組み等について説明し、皆様のご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

2 委員の改選について

布委員（社団法人七尾青年会議所理事長）→宮川委員（社団法人七尾青年会議所理事長）

3 議件

＜松木会長＞

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
配布された資料をご覧になってわかるように、公立能登総合病院は地域の医療、福祉のために努力しております。
今日は、今年度の反省と次年度の取組みについて病院側から説明がありますので、皆様には忌憚のないご意見をお願いいたします。

（1）公立能登総合病院の運営状況と次年度の取組みについて

- ・ 月間北國アクタス3月号の記事に、「深刻さ増す奥能登医療、揺らぐ公立病院の経営」の記事が掲載されたように、公立病院の経営状況が厳しい中、公立能登総合病院では「最新最高の医療を安全に提供する公的医療機関として能登全域の住民の健康を守ります」を基本理念に病院運営に取り組んでおります。当院からは、精神科、皮膚科、脳外科等の医師が奥能登の病院に診療支援を行い、能登地域の人々が安心して医療を受けることができるように努めております。
- ・ 奥能登は過疎化、人口高齢化が進んでおり、病院の医師、看護師不足も問題となっております。当院においても人口高齢化の波が来ております。また、患者が急性期を脱しても、受け入れ先が無い状態が続いております。
- ・ 平成24年1月までの総収入は、全体では昨年より約1億8,500万円の増加となっております。経営は良好です。また、1月の例月出納検査表から割り出した今年度の事業収支は、約2億1,000万円の黒字になると予想しております。
- ・ 下半期の当院の活動としましては、12月にクリスマスコンサート、1月に看護師成果発表会、2月に地震・火災総合訓練を行いました。また、12

月28日に匿名の方から、車椅子が3台寄贈されました。

- ・ 新病院に移転してから12年が経ち、都合の悪い部署も出てきております。そのため、次年度は施設設備改良に取り組む予定です。具体的には、職員駐車場増設、診療棟等増築、コンビニの設置を予定しております。
- ・ 職員駐車場に関しましては、現在モニュメントがある場所に駐車場を増設する予定です。診療棟等増築に関しましては、1階には労働組合事務室を置き、2階部分には透析室・内視鏡室を増室する予定です。3階は管理棟として、総務、人事、経営企画、院長室、管理者室、看護部長室等を置く予定です。4階は現在の会議室の倍程度の会議室、職員用休憩スペースを置く予定です。コンビニに関しましては、1階風除室の外に設置する予定です。
- ・ 来年度予算は、約1億500万円の黒字予算を策定し、施設設備関係費では資産購入費として約3億8,800万円、施設設備改良費として約5億5,600万円を計上しております。
- ・ 企業とは、事業を継続していくことが前提です。病院も、病院事業を継続し、経営努力によって利益を集積し、社会貢献に使っていくことが事業になります。当院は、地域住民の意思で作られた病院であり、これからも住民の皆様へ可能な限り良質な医療の提供を行い、また当院で働く職員にも優しい病院になるよう、これからも使命感を持って病院事業に取り組んでまいります。

<小川委員>

コンビニを設置するということですが、現在の売店は今後どうする予定ですか。

- これまでに、ご意見箱等でもコンビニ設置のご要望が多くありました。コンビニが設置されるまで現在の売店は必要ですので、建設が終わるまでは売店と契約を継続いたします。

<小川委員>

入口付近の山を時々工事していましたが、公立能登総合病院と関係あるのでしょうか。

- 工事を行っていた場所は私有地であり、工事に関しましても地主が個人的に行っていたもので、当院とは一切関係ありません。

(2) 平成24年度当初予算等について

①当初予算の概要について

収益的勘定

事業収益	8,899,249千円	対前年度比	284,234千円
医業収益	8,110,959千円	対前年度比	210,140千円
入院収益	5,189,095千円	対前年度比	136,512千円
外来収益	2,590,630千円	対前年度比	114,158千円
その他医業収益	331,234千円	対前年度比	▲40,890千円
医業外収益	788,290千円	対前年度比	74,094千円
受取利息配当金	375千円	対前年度比	▲75千円
補助金	16,637千円	対前年度比	3,442千円
負担金交付金	657,203千円	対前年度比	60,705千円
その他医業外収益	114,075千円	対前年度比	10,022千円
事業費用	8,794,114千円	対前年度比	192,146千円
医業費用	8,450,122千円	対前年度比	203,171千円
給与費	4,733,593千円	対前年度比	111,471千円
材料費	1,625,160千円	対前年度比	66,009千円
経費	1,365,958千円	対前年度比	24,787千円
減価償却費	686,727千円	対前年度比	6,526千円
資産減耗費	9,706千円	対前年度比	▲4,392千円
研究研修費	28,978千円	対前年度比	▲1,230千円
医業外費用	343,992千円	対前年度比	▲11,025千円

支払利息等	237,489千円	対前年度比	▲11,412千円
繰延勘定償却	8,015千円	対前年度比	2,651千円
雑損失	88,750千円	対前年度比	▲1,961千円
消費税	9,738千円	対前年度比	▲303千円
収益費用差引額	105,135千円	対前年度比	92,088千円
資本的勘定			
資本的収入	1,260,868千円	対前年度比	723,461千円
企業債	725,000千円	対前年度比	472,900千円
補助金	150,000千円	対前年度比	150,000千円
他会計補助金	31,428千円	対前年度比	28,803千円
他会計負担金	353,971千円	対前年度比	61,291千円
寄附金	1千円	対前年度比	0千円
貸付金元金収入	468千円	対前年度比	467千円
資本的支出	1,707,690千円	対前年度比	627,750千円
建設改良費	945,318千円	対前年度比	598,223千円
資産購入費	388,818千円	対前年度比	129,179千円
設備整備改良費	556,500千円	対前年度比	469,044千円
企業債償還金	749,672千円	対前年度比	30,987千円
投資（修学資金貸与金）	12,700千円	対前年度比	▲1,460千円
収入支出差引額	▲446,822千円	対前年度比	85,711千円
分担金			
平成24年度分担金			
	1,051,439千円	対前年度比	77,527千円
七尾市	901,484千円	対前年度比	66,264千円
中能登町	149,955千円	対前年度比	11,263千円

②平成24年度の事業方針並びに予算に係る重点目標と重点施策について（案）

重点目標

- 1 住民に信頼される安心で安全な地域医療の提供
- 2 持続可能な健全経営の確立

重点施策

- ・たゆみない経営改革の推進
診療報酬改定への迅速な対応と重点項目の管理、急性期看護補助体制加算Ⅰ（25対1）の取得検討、医師事務作業補助体制加算（20対1）の取得検討、第3次経営改革のシナリオの評価・検証、管理者による経営状況説明会、退院調整機能の強化等。
- ・積極的な地域医療連携の推進
紹介率・逆紹介率向上のための取組強化、在宅医療の充実等。
- ・医療の質及び患者サービスの向上
診療棟等の増築、内視鏡室・透析室の拡充、高度医療機器等の整備、災害拠点病院としての機能拡充、コンビニエンスストアの設置等。
- ・働きがいのある職場づくり
福利厚生の実施と環境整備、コンビニエンスストアの設置等。
- ・徹底した医療安全体制の構築
医療安全管理者による環境整備、警備アドバイザー配置による苦情等の早期解決とトラブルの防止等。

<小川委員>

七尾市と中能登町の花担金の比率は、人口比率でしょうか。

→ 人口割合、病院の所在地の割合と当院を利用している患者の割合によって按分されています。七尾市が約85%、中能登町が約15%となっております。

<小川委員>

出前講座には、パンフレット等はあるのでしょうか。

- パンフレットはございます。出前講座につきましては、陽だまりに記事を掲載するなどの広報を行っており、今年度は現在までに27か所で開催いたしました。参加人数は1,058名となっております。傾向としましては、認知症に関する講座の申込みが多くなっております。

(3) 第3次経営改革のシナリオについて

今年度、第3次経営改革のシナリオ策定のプロジェクトチームを作り、職員からの意見、住民からのパブリックコメントの募集を経て策定いたしました。なお、2月24日に開催された組合議会において了承を得ております。第3次経営改革のシナリオについての主な概要を説明いたします。

- ・昨年4月に、当院は「地域がん診療連携協力病院」の指定を受け、今後も積極的にがん治療を行っていく。
- ・災害拠点病院、初期被ばく医療機関としての役割を果たしていく。
- ・新卒看護師に現場で必要とされる高度な技術を習得させるための、看護師臨床研修制度を今後も実施していく。
- ・急性期看護補助体制加算25対1、医師事務作業補助体制加算20対1の取得を目指していく。
- ・医業収支比率は年々向上しており、今後は100%を目指していく。
- ・「2人主治医制」の推進に取り組み、また紹介患者優遇制度を確立し、各医療機関との連携強化を図る。
- ・診療報酬制度の適切な対応に取り組む。
- ・透視室・内視鏡室の増築により、診療機能の拡充に取り組む。
- ・接遇研修、フロアマネージャーの配置、コンビニ設置等により、患者サービスの向上に取り組む。
- ・能登中部医療圏における公立病院の再編・ネットワーク化に取り組み、県の医療計画に合わせ、医療提供体制の見直しを図っていく。

<坂井委員>

七尾鹿島広域圏事務組合解体の新聞記事がありました。本当でしょうか。

- 七尾鹿島広域圏事務組合の解体につきましては、事務の効率化の一つとして検討されている段階です。今後は、七尾市や中能登町と議論をし、決定されていく予定です。その場合の当院の運営につきましても、うまく運営が行えるよう議論していきたいと考えております。

病院経営には、採算の合わない部分も取り組んでいかなければならないなど、公的部分が多くあります。今後も、公的性格を失わないような病院経営に取り組んでいきたいと考えております。

4 その他

<荒牧委員>

小児の予防接種は、小児科外来などでなく別の場所でできればいいと思います。

公立能登総合病院は無くてはならない病院なので、これからも地域住民のために運営して行って欲しいです。

- 健診センターの職員は、子どもに慣れていない可能性もあるため、現場と話をし、最適な方法を考えていきたいと思っております。

<清水委員>

外来看護師の制服の色に白と青があるのですが、どう違うのでしょうか。

- 医療業務の簡単な補助を行う、看護補助者が青い制服を着ております。

<清水委員>

予約をしたにもかかわらず、時間を過ぎても呼ばれないことが多いため、改善して欲しい。

→ 患者さまが複数の診療科を受診している場合に、呼び出してもいらっしゃらず、後で戻ってきて次の呼び出しがあるまでずっと待つことになってしまうといったケースが多く見られます。そうならないように注意をしておりますが、他の患者さまも多くいらっしゃり、完全に対応するのは難しく、ご不便をおかけしております。

長時間待っておられる患者さまへの対応のため、フロアマネージャーが巡回し、話を聞く等なるべく不満がなくなるように対応しております。

<小林委員>

出前講座を町内でやってほしいという声があるのですが、こちらで何か準備するものはありますか。

→ パソコンやプロジェクター等、全てこちらで準備しておりますので、お気軽にお申込みください。

<松木会長>

出前講座を申し込む際に、電話等でお伝えすれば上手く対応していただけたと思いますので、地域の皆様に広めていただくようお願いいたします。

(1) 新たなる病院づくりへの挑戦（新聞報道等）について

資料については、新聞報道等のまとめになりますので、ご一読いただければと思います。

<松木会長>

資料を詳しく読んでいただき、質問等があれば次回の協議会の質問事項で出していいただければと思います。

(2) 次回の開催予定について

次回の協議会は、今年の秋頃を予定しております。議件として、改革プランの進捗状況、上半期の経営状況等を予定しております。

5 閉会のあいさつ

<藤岡病院長>

本日は、長時間にわたりご協議をしていただきありがとうございました。今年度も当院は良好な経営状況で終えることができそうです。また今年度は地域医療支援センターの開設があり、病院フェスタも好評をいただきました。

本日はいただいたご意見・ご指摘を真摯に受け止め、より地域に密着した医療サービスを提供していきたいと思っております。今後とも、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

(午後4時00分閉会)